

### 「福島復興学」サナライズ

原発事故からの復興のため福島大学が頑張っている。活動は多岐にわたっているが、ここでは「福島復興学」を掲げて開設した大学院サナライズを紹介する。

先日、東京・池袋近くの立教大学キャンパスにある小さな教室を訪ねた。正式名は「福島大学大学院地域政策科学研究科東京サナライズ」。運営責任者は自治体政策が専攻の今井照教授である。

「福島復興学」といいますが、すでにあるわけではなく、これから成業させていく学問です」。今井さんは言う。「サナライズは、昨年から地元の大卒として何ができるかを考えた上での結論です。福島だけでなく東京でも研究をし発信していくと思

い、協力してくれる大学を探しました」。立教大学はすでに岩手県陸前高田市への支援を進めており、被災地の大学との連携

ということで快く応じてくれた。事務室と2部履、電話や震災代金も無償という。4月に入った大学院生は6人。20代から60代までの社会人で、福島出身者もいる。いずれも復興に関わる強い意欲を持った人たちだ。サナライズを持つ大学は多いが、

そこだけで修士号がとれる所は珍しい。授業は夜間で週3回。地域政策、災害法制、被災者支援などを福島大学とオーストンの先生が教える。阪神大震災の復興研究に実績がある関西の専門家が、多いのも特徴だ。

授業は討論を重視している。「さきさまな体験をしている人たちのので、講義の刺激を受けて面白い議論になります」と今井さんが。5月から福島大学特任研究員になった社会学者の開拓博さんも震災の歴史などの授業を終え、「皆さんの事を抱えながら非常に熱心でした」と感心していた。

学んだ成果を福島の復興に、きょう生かしてくれると期待している。10月3日に来年度の入試があるという。

2012.6.15

発信箱	冠木 雅夫
編集構成局	